

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援 タートル体力運動能力開発ラボ TURTLE KIDS SENDAI
------	---

公表日 令和 8 年 2 月 25 日

		チェック項目			工夫している点	課題や改善すべき点
			はい	いいえ		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	・活動のスペースは適切であるが、その日の利用者数や活動内容によって机や椅子を排除し広々とした空間を作っている。	・運動の部屋の天井の高さが低く感じる ・支援室も狭く感じる ・利用児、支援員全体の人数を配慮した空間ではない
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・急な欠席等で支援員数が多かったり、少なかったりするが声をかけ合って支援をしている ・圧迫感がないように配慮をする	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	・事業所が建物の2Fにあるが、エレベーターがないため車いす対応はできない。療育室内は安全面を考慮して床にクッション性のある物を使用している。 ・トイレへ誘導するときは、必ず支援員が入口で待つようにし男児と女児が重ならないようにしている。	・施設が2階にあるのでバリアフリーではない為、重度心身障害利用児が上がってくるのが困難に感じる ・部屋移動の際に段差がある ・視覚支援、その子に合った環境設定が必要 ・配慮が行き届いた箇所とそうでない箇所がある(水道・トイレ等)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動の後は清掃・消毒・換気を徹底している	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・パーティションで空間を分ける ・別の空いている部屋へ移動し、使用できるようにしている。	・個別環境を作るのが大変なので壁を向く空間を設定するなどの配慮が必要 ・個別スペースを作る環境がない
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・職員会議や支援会議を通して話し合いの場を設け、全員が発言できるよう活発な意見交換を行っていく。	・職員会議などで共有しているが、まだ密に行ってもいいと感じる ・A→Pへの参画が少ないように感じる ・概ねできているが、全体で共通理解できているか曖昧
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・月に1, 2回職員会議等で話し合い全員が発言できる場面を作っていく。 ・具体的な策を提案し、業務改善に反映出来るようにしていく。	・それぞれの意見を発表する場面が少ない ・業務改善に反映されないこともある
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・早めに依頼し、定期的に行うようにしていきたい。(年3~4回程度)	・第三者へ外部評価をお願いしていたが今年度は日程が合わずできていなかった。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・グループ会社主催の研修に年1回参加しているが、途中入職者への研修ができていなかった。また、動画配信でいつでもどこでも空き時間で出来るような研修をで取り入れている。	・自分にとってどれが法人内研修か理解していない ・時間、現場の人数配置の都合によりほとんどできていない
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	・ 支援会議等で情報共有し共通の認識で支援を行っているが、さらに最善の支援が出来るよう職員一人一人のスキルを上げていく。	・ 職員の共通理解が足りていないと感じる
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	・ 支援会議等で情報共有し共通の認識で支援を行っているが、さらに最善の支援が出来るよう職員一人一人のスキルを上げていく。	・ 全体がしっかりと把握できているか曖昧
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・ HUGを使用
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	・ 地域のイベントや行事等の情報収集を行い、活発的に参加できるよう計画に入れていく。	・ 地域の方との触れ合いが少ないので増やしていきたいと思う
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	・ 1週間ずつ担当を決めて立案している職員会議の時に活動の目的と具体的な内容について説明を行い、誰でもリーダーが出来るようにしている。	・ チームでの検討はしていない。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・ 児童の状況を見ながら適宜プログラムを調整し実施。 また、季節のイベントを取り入れたり、月ごとに運動の種目を変えるなど固定化しないよう工夫している。	・ 毎月前月に週案を考え活動を考えている ・ 運動面は体操の先生が月ごとにマット・跳び箱・鉄棒等カリキュラムに沿って支援を行っている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	・ 計画を立てて実施していけるようにする ・ 概ね集団活動、集団行動が取れない子どもに対して個別支援を実施	・ 個別活動の案は出ているが、実際活動ができていない
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・ 毎朝朝礼で1日の流れや子供の話を話している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	・ その日に支援した職員間では振り返りができている ・ 休みの職員は情報共有を徹底できるように出勤時HUGのシステムで確認している。	・ できているときもあるが、その日に振り返ることはまだ少ない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	・ 幼稚園・保育園・学校とは送迎時や見学を通して共有している。医療関係とは連携を取りにくいため保護者をお願いして、情報を共有させていただいている。	・ まだまだ連携不足だと感じる ・ 医療機関との直接的な連携は不十分
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・ 送迎時に担任又は園の先生に気になった事や困りごとなどを聞くように心がけている。 ・ 併用事業所との連携は担当者会議のときに共有し、また必要に応じては電話で確認を取るようになっている。	・ まだまだ連携不足だと感じる	
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	・ 移行支援シートを作成し、情報の提供を行っている。		

関係機関や保護者との連携	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	—			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	—			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	—			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・会議等に参加して相談し助言をいただいている。また、センター主催の研修に積極的に参加しているが参加者が偏らないよう全職員が参加出来るように考慮する。	・機会が少ない
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・今年度はできなかったが、来年度はぜひ計画を立てて実行したい。	・機会が少ない
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・HUG（共有アプリ）などで伝えあっている ・LINE、送迎時に直接話すことで状況把握を行っている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・ペアレントトレーニングの研修を受け、利用者・ご家族にもよりの確な支援が行えるようにしていく。	・家族参加型の研修などは提供できていない ・個別対応が多く、全体に向けた研修や情報提供はできていない	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・LINE、HUG上でのやり取り、送迎時の会話で相談を受け、助言や面談等の対応	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・年に1、2回行事を設け交流の場を作ろうと心がけている ・親子、兄弟で参加可能なイベントを定期的に開催	・兄妹同士の交流となると部屋を分ける必要があると思う
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月園へ手紙を発行し、情報提供、共有 ・LINE、HUGで連絡を発信	・SNS,チラシ等は未作成
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	・今後、事業所の行事に参加していただくよう計画を立てていく。	・実施できていない
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・投薬依頼書の記入、薬剤情報提供書のコピー等を貰い管理している ・アレルギー対応は行っているが、医師の指示は仰いでいない
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	・職員会議等で報告し、再発防止に努めている。	・些細なこともヒヤリハットに記入、職員と共有することで再発防止につとめている
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	・委員会で決まったことを職員会議で共有している。		・委員会を設置し対応している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	・子どもの安全を確保するためのやむを得ない拘束（手を握る・抱きしめる等）について説明し、個別支援計画に記載し承諾を得ている。		